第千百七號　日曜日休刊　（定價三錢）

時事新報

（郵便局認可）

一部金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵便税一箇月金廿六錢一箇年金三圓七十二錢〇左ニ掲グル各地ニ於テハ郵便料ニテ配達致候

東京　東京横濱　横須賀　從神奈川至小田原驛　面積七湯　大坂
京都　大津　神戸　尾ノ道　廣島　笠岡　岡山　唐島
和歌山　鳥羽　高知　下ノ關　名古屋　敦賀　岡崎　豊橋　福井
四日市　津　鳥取　松坂　山田　仙臺　福島　二本松　石ノ巻
函館　青森　弘前　宇都宮　高崎　八王子　千住　草加
越ヶ谷　浦和　熊谷　杉戸　幸手　久喜　鶴宿

其他同地近傍適當ノ個所ハ同シク郵便料不申受候

時事新報廣告料（前金）一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上	七日以上	十六日以上	一箇月
		六日迄	十五日迄	上廿日迄	一日以上
自一行	五十錢	四十錢	三十錢	二十錢	十錢
一箇月	三十錢	二十錢	十錢	八錢	六錢
一箇月以上	二十錢	十錢	八錢	六錢	四錢
五十行	十錢	八錢	六錢	四錢	二錢
百行以上	七錢	六錢	五錢	四錢	二錢

明治十八年十月廿二日（木曜日）
壽乙酉九月十五日　かのゑ、いぬ

日出午前六時十四分　入午後五時十五分
月出午後四時二十七分　入午前四時零九分
朝潮午前四時二十五分　午後四時四十六分

（西暦一千八百八十五年）

時事新報

開國雜居一日も遲疑すべからず　S.H.

優勝劣敗の字内の大勢人事の通理強兇は弱兇を制し小は大に制せらる小者寡者の爲めには如何にも迷惑の仕合なれども大者強者の爲めには甚だ都合よ兇仕組にして面かも人事の進歩と唯此強者必勝弱者必敗の一點にあるものなれば敗るゝも怨むに足らず勝つも誇るに足らぬ優勝劣敗の正理甚だ分明なりと云ふべき今彼の相撲仲間を觀るに東西の大關より三段目の小相撲に至るまで其力量の遙に素人の右に出で骨格の偉大支体の發達强壯の相貌自然ゝ備わり一目して其相撲取なるを知るべく又其仲間に入て之を視るに三段目は二段目よりも屬く二段目は幕れ内よりも弱き其大關に至ては實に相撲の大王にして之に叶ふもののあるべからず斯く相撲取の上より下に至るまで其順序整然として乱れざるは蓋し優勝劣敗の理盛に行はれて俗に所謂腕づくを以て其仲間の主義とするが故なり然るに今相撲社會の風儀一變して目上の强き相撲と角力するを嫌ひ只管弱きものゝ取組ひを以て己れの面目とするとならば遂には關取必ずしも强からず小相撲必ずしも弱はからぬ素人却て相撲取を投げ出すが如き奇觀を呈するも知るべからず幸にして未だ此奇觀を呈せざるは相撲取が其相手を選ばず徹頭徹尾優勝劣敗の正理を以て其主義とするなり前隙の言葉して理に違ふとなくば更に此理に據て發明すべし一線の事柄こそなれ即ち我日本の開國雜居の利害是なり或人曰く日本國と開て貿易と始めしは三十年前の事なれば今更ら開國の利害得失を論ずべきよあらずと答て曰く然らず我國中の五港と開て外國の貿易と始めしは二三十年の昔なりと雖ども是は唯我國の海邊にある五箇所の港と開兇しのみにて全國を開て彼我の交際をなすにあらぬ國は依然舊時の鎖國ふして唯港を開きしのみなれば識者幸に開港と開國との別を明かにして下文れ意を解せられよ

德川幕府の末年に當り鎖國攘夷の說盛に行はれ一時全國の人心を騷動し腕力以て之を拂ひ武勇以て之に當ふんと熱心止む時なく遂に薩長戰爭打擲の一段に立至りぬ抑れども優勝劣敗の通理は彼方もあきものにて我には弓矢刀鉾の備盛重なりと雖も彼れには巨艦大砲の利器充分ふして藩長の武勇も其陰なく諸の所謂報國義士の心中所謂報國義士の心中所謂報國義士の心中